

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時：令和4年5月25日（水）第5校時

場所：3年各学級

指導者：教諭 馬内 幸恵（3年1組）

教諭 若泉 勉（3年2組）

教諭 富澤 祐亮（3年3組）

1 単元名

『「未来を拓く」生き方とはどのような生き方だろう ～SDGsの視点を取り入れた自分と周囲の未来を拓く生き方を探る～』

2 単元の目標

様々な体験や交流を通し、ふるさと盛岡の良さを発見し、さらに発展させることができるよう思考し、さらにはSDGsの視点をも加味した探究活動を通して、自分の考えを深め・発展させ、未来をたくましく拓く力とはどういうものなのかについて主体的に考え、実践することができる。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 話し合いや交流・体験を通し、自分の考えを再考し、より確かにしたり、発展させたりしている。 ② よりよい話し方、聞き方について理解するとともに、その技能を身に付けている。 ③ 他者の良さを見付け、それを伝えている。	① 他者の考えを理解し、広い視野を持ち、自分の考えを深化している。 ② 話し合いや交流を深めるために、的確な役割を考え、進め方や聞き方を工夫し、実施している。 ③ 話し合いや交流において、相手の考えを明確にとらえている。	① 課題の解決に向け、探究的に学習を進めようとしている。 ② 話し合いや交流を通し、他者の考えに耳を傾け、それにより自分の考えを深化し、実践しようとしている。 ③ 話し合いや交流を通じて、他者の良さや自分の良さや特徴を理解しようとしている。

4 単元について

(1) 生徒の実態

3学年の生徒は、全体を通して、グループ活動やディスカッションの活動に意欲的である。また、各クラスとも男女の協力や学習に対する姿勢も積極的であり、比較的学力も高い。しかしながら、主体的に意思表示を行うこと（個の力強さ）や自分の考えをまとめること、相手の考えを受け入れることや合意の形成を図ることなどが弱い生徒もいる。

令和3年7月に実施した「自己有用感」を図るアンケートの結果（2年時）として、全校の20～30%が、否定的な回答（当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない）をしている。否定的回答の割合は、全体と比較して、概ね10%ほど高い結果を示している。学年全体が、学校生活で「自己有用感」を感じる場面が少なく、自己の評価も低くなったと考えられる。

このことから、Jタイムや学習場面に於いて、協同的な学習活動、考えさせる場面の指導の充実や他者の意見等を踏まえた自己の考えの変容の自覚や再構築を促す指導の充実、自己有用感を高める指導の重視（交流における「いいねBox」の記入、ほめほめシャワータイムの導入）などの実践を行ってきた。

令和4年3月に同アンケートおよび記述式による（本学年のみ）アンケート「学校生活に関する調査」を実施した結果、以下のような回答が得られた。

（問い）交流場面での仲間の考えや言葉は、あなたの考えの役に立っていますか。また、具体的にどのようなことがありましたか。質問で選んだ事柄について、具体的な内容（体験）を教えてください。

《肯定的回答 84.6%/否定的回答 14.4%》（主な肯定的回答を抜粋）

- ・自分と反対の意見の人と話し合っ、相手の意見もわかるようになり、視野が広がった。
- ・自分の意見に反対するだけでなく、新しい角度からの提案があり、「もっとこうしたほうが良い」という意見を出してくれた人がいたため、自分の考えが広がった。
- ・「なるほど」と思うことが多く、自分では考えつかなかった意見があった。また、共通する意見が出た場合、自分の考えに自信を持つことができたから。
- ・意見の相違があっても、そのような考え方もあるのかと、違う視点からも捉えることができ、考えが深まった。
- ・パネリストを担当したときに、友達から褒められ、自分の伝え方が正しいのだと思える機会があった。
- ・自分と同じ意見であっても根拠が違うなど、考えを深めさせられる場面が多くあり、自分の意見にさらに説得力が加わった。

これらの記述式回答の結果や否定的回答の数値が減少していることから、Jタイムでの体験的活動や行事、日常の学級・学習活動について、生徒は充実感を持って臨んでおり、自己有用感も向上していると捉えられる。

(2) 単元の指導構想

ア 交流の場の設定・工夫

本学年は全体として、個の力強さ（大きな声で発表する、異集団の中で自分の考えを積極的に述べる等の力）が不足している。この点に着目し、交流の場を多く設けること、その都度生徒のメンバー構成を変えること、交流の形態を多様にするなどを意図し進めていく。

イ 意見交流の場における適切なコーディネート

「総合的な学習の時間（Jタイム）」において、いかに全教員が一体となって、生徒を指導・支援をしていくかという視点を加え、修学旅行を柱に、事前学習の座談会においては、学年の教科担当である学年外の教員もグループを担当し、適宜コーディネートや指導・支援を行い、事後交流会につなげる。また、複数のグループでの意見交流会でそれぞれ教師が指導・支援にあたる際に、どのように指導・支援にあたるか、また評価をどう行うかについて、それぞれの教師が見取り、それがなされていないと判断した場合、コーディネートしたり、指導・支援を行ったりすることを共通確認した。また、同様の視点で見とりながら、評価を行うこととした。

ウ 振り返り（学習シート）の工夫

生徒の思考に寄り添い、授業のねらいに応じて、何をどのように振り返らせるかはその都度変化させて行う。また、ほめほめシャワータイムの資料とする。良いところメモの記入においては、交流の仕方（深まり・広がりのある交流）が重要になると考える。そのため、根拠を明確にした自分の考えをしっかりと書くことや、交流によって考えが変化したり確信になったりしたことが、誰のどのような考えや発言がきっかけになっているのかを認知できるよう工夫する。

エ Jタイムを通して身につけさせたいスキルの系統性

Jタイムを通して、段階を追ってどのようなスキルをどのように身につけさせていくか、系統的に整理し指導していく必要がある。本学年では、3年生の最後の段階において、10名を超えるようなある程度の大人数の集団の交流場面において、教師の支援や指導を極力必要とせず、交流の意図を理解したうえでコーディネートできる人材を育成していきたいと考えた。

オ 小集団の学びを計画したあとの共有の在り方

本単元は、修学旅行をメイン学習として、交流会を経た事前学習（座談会）での自分の考えとメイン学習後の自分の考えを対比させることを通して、自分の考えの変容を自覚させることをねらいとした。具体的には、自分の考えの変化または確信の根拠となっている仲間の考えや言葉、行動、事柄に気付かせ、自分の考えの支えとなった仲間の存在を交流することにより、「自分が誰かの役に立っている・必要な存在で

ある」という自己有用感を高めていくと共に、「仲間に支えられている・助けられている・仲間の存在は大切だ・ありがとう」といった、相互に高めあったり、支え合ったりできる集団の育成を目指す共有の在り方を検討し進めていきたい。

5 指導と評価の計画

自己有用感向上のための活動：「良いところメモ」(★)「ほめほめシャワータイム」(☆)

時間	学習活動(※：留意点)	知	思	態	評価方法
5	<p>○オリエンテーション(『未来を拓く生き方について』)</p> <p>○SDGsについて理解を深める。</p> <p>※タブレットを使用し、調べ学習を行う。</p> <p>○「未来を拓く」生き方について、コンセプトマップを作成する。</p> <p>○仮説を設定し、共通テーマに対する自分の考えと他を比較し考えを深める。</p> <p>○地域の未来を築くために、地域の現状をコンセプトマップにまとめ、テーマについて考えを深める。</p> <p>※個人→班の流れで交流し、他の意見を参考に追記していく。</p> <p>★他の生徒との交流から、よかったところをいいねBOXに記入する。</p> <p>☆いいねBOXの記入をもとに、交流する。</p>			① ①	<p>・ワークシート①への記述</p> <p>・ワークシート①への記述</p>
7	<p>○座談会の概要を理解する。</p> <p>○座談会に向けて、質問内容を考える。</p> <p>○グループで交流し、質問事項を決定する。</p> <p>※9つのグループに分かれ、役割分担も考える。</p> <p>○座談会の実施</p> <p>※ふるさとガイドの方から基調講話をいただき、考えを交流しながら、まちづくりのために必要なことを考える。</p> <p>○座談会の振り返りを行う。</p> <p>○パネルディスカッションの原稿を作成する。</p>	①	②	①	<p>・ワークシートへの記述</p> <p>・ワークシートへの記述</p> <p>・交流</p>
3 (本時 1/3)	<p>○パネルディスカッションを行う。</p> <p>※学級で役割を決め、「未来を拓く」考え方について、パネルディスカッションを通して交流する。</p> <p>○パネルディスカッションのまとめ、意見交流をする。</p> <p>★ほめほめシャワータイムの中で、他者のよさについていいねBOXにまとめる。</p> <p>☆発表内容やお互いのよさを伝えあう。</p> <p>○未来を拓く生き方についての仮説の再考を行う。</p>	① ② ③	③ ③	① ③	<p>・発表、交流</p>
1	<p>○単元のまとめと振り返りを行う。(事前学習)</p> <p>※日常生活の中でできる具体的な行動を考え、掲示する。</p>		①	①	<p>・交流</p>

6 本時の学習

(1) 目標

調べたことやまとめたことを根拠にして自分の意見を話すことができるとともに、自分と異なる複数の意見を聞き、自分の考えを見直したり深めたりすることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	お互いの考えを理解し、相違点や共通点を整理するためには、自分の思いを相手に伝えることが大切であるとともに、相手の思いを聞くことが大切であることを理解している。(記述・伝え合い)
思考・判断・表現	パネリストやコーディネーターの発言を受けて、自分の考えを見直したり深めたりすることができる。(記述・伝え合い)

(3) 本時の指導構想

本時は、16時間扱いの13時間目にあたる。上記単元の指導構想を基に、以下のことに配慮し授業を構想した。

生徒の実態を踏まえ、これまでペアでの交流や4人グループの交流、班での交流、10人グループでの交流、ポスターセッション、パネルディスカッションなどを試行してきた。これらの体験をもとに、より多くの聞き手を前に、ある程度の緊張感を味わわせながら、自分の考えを発表させるという点においては、さらに多くの場を経験させる必要があると考えた。そこで、本時は、座談会のグループ10名(各学級3～4名)を学級単位に戻し、異なるグループのそれぞれの学びを、キーワードを用いながら相手に伝えること、そして一方向の交流にならないよう、それを聞いて、自分の考えの変容や深まりを交流し合うことをねらいとした。また、本時は座談会の事後交流会をパネルディスカッションの形式を基に行うため、展開部分は、生徒がコーディネーターを務め進めていく。事前に意見をつなげること・深めること・広げることが意識し、司会進行をするよう指導を行い交流会に臨むよう配慮した。また、交流の状況を判断しながら、教師が適宜コーディネートに加わり、指導・支援を行い進めていきたい。学習シートについては、次時に共通テーマに対する仮説を練り直させるため、仲間の発表やパネリストの発表と意見交流を通して、共通テーマに対する自分の考えを深めたり、広げたり、つなげたりすることをねらいとするため、この視点をもとに授業の最後に記述させることで、本時を想起し、自分の思考の変容や深まりを自覚させる振り返りになるのではないかと考える。この記述を自身の資料として、次時に行う本研究の「ほめほめシャワータイム」を進めていくため、仲間の考えと自分の考えを対比させ、共通点や相違点に着目させながら、主体的に交流会に臨むことができるよう進めていきたい。

(4) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点 (◆ 評価場面)
導入	3分	1 前時までの確認と本時の課題を確認する	・座談会での講師先生のお話や交流から見出したキーワードとその理由を想起させる。
		「事後交流会を通して、自分の考えを深めよう、広げよう、つなげよう」	
		2 本時(事後交流会)の流れを確認する	・スクリーン
		3 開会宣言とテーマの趣旨説明をする (コーディネーター) ◎テーマ「中学生(私たち)が考える未来(将来)の岩手・盛岡、その未来を創るために私たちができること」	・意見交流の場の設定・工夫 生徒の実態を踏まえ、①より多くの聞き手を前に②ある程度の緊張感を味わわせながら③発表のみ(発表会)で終わらせないことを意図した意見交流を行わせる。
		4 パネリストの発表・相互質問・意見交流 5 フロアからの質問・意見 ◇座談会の自分のグループでは、キーワードは○でしたが、□さん(パネリスト)の考えと共通の部分	・コーディネーターには、「それはどうしてですか?」「今、()というキーワードが気になったという意見がありました、同じ人いませんか?」等、意見をつなげること、深めること、広

<p>展開</p>	<p>32分</p>	<p>があるように思います。そのことから、未来を拓く生き方のヒントになるのではないかと思います。</p> <p>6 パネリストの意見発表・フロアからの質問意見</p> <p>◇〇さん（パネリスト）は、〇〇と考えたといいましたが、私は△△も必要と思います。どう思いますか。</p> <p>◇私も□さんの言う△△という考えと同じ考えを持ちました。ただ、他のパネリストの意見も聞き、〇〇という視点も同じくらい大切だと感じましたが□さんはどうですか。</p> <p>7 フロアからの感想発表</p> <p>仲間の考えや発表、気になったキーワードの意見交流を受けての感想を発表する。</p> <p>◇△さんの意見は、SDGsの※※にもつながる、良い考えだと思います。</p> <p>◇今日の交流会を通して、私は◆さんの☆☆という言葉が心に残りました。</p> <p>◇私は××という考えをもっていました、△△ということも同様に大切だと考えることができました。</p> <p>◇私は◆◆と考えていましたが、みんなの考えを聞いて、■■のように考えが変わりました。</p> <p>8 おわりのことば</p>	<p>げること、一方通行にならないよう、他の人に話を振る事を意識させておく。</p> <p>◆思考・判断・表現（発表・交流の姿）</p> <p>・意見交流の場における適切なコーディネーター コーディネーターの育成の視点を持ち、教師が指導・支援に入る。⇒『未来を拓く生き方』とはどのような生き方か」を考えるうえで、生徒の思考に深まり、広がり、つながりが見られないと判断した場合、教師がコーディネーターに加わる。</p>
<p>終末</p>	<p>15分</p>	<p>9 本時の振り返りを記入・発表する</p> <p>◇私は、事前学習の座談会での講師の先生のお話から、未来を創るために私たちにできることは、（ ）と考えていましたが、今日、〇さんの話から感じた（ ）というキーワードを聞いて、☆というところは共通しているのではないかと考えました。「未来を拓く生き方」を考えるうえで、自分の中で大事な点につながった1時間でした。</p> <p>10 今後の学習の見通しをもつ</p>	<p>◆知識・技能（記述の姿）</p> <p>・振り返り（学習シート）の工夫 本時の学習で深まったこと、広がったこと、つながったことという視点から学習シートに記述させ、自分の考えの変容などを自覚させる。</p> <p>・次時は、本時までを受けて、共通テーマに対する仮説を練り直すと共に、「ほめほめシャワータイム」の時間（本学年では、いいねBOXの記入と交流）であることを伝える。また、本時の学びと他者の良さから学んだことや発見した自分の良さを踏まえて、SDGsの視点で「未来を拓く」ために、学校生活ではどのように生かしていくのか（行動していくのか）についてまとめることを伝える。</p>